

＜金標準先物、FOMC 以降は「知ったら仕舞い」の巻き戻し・・・＞



(出所：オアシス)

NY 金は 10 月 4 日に 1738.7 ドルまで上昇した後は、デーリー・サンフランシスコ連銀総裁「0.75%の利上げペースを減速させるには高いハードルがある」と発言、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁は「インフレ鈍化の任務を終了しておらず、利上げサイクルを休止するのは「かなり遠い先」」エバンス・シカゴ連銀総裁も「政策金利は来春までに 4.5～4.75%に達する可能性が高い」と発言し、金利高の動きに合わせて 1600 ドルまで下落している。ただ円建ての金標準先物は、32 年ぶりの 151 円を超える円安効果を受けて 7800 円～7900 円のレンジで推移している。また週末の個人消費支出 PCE コアデフレーターは前年比で前月の 4.9%を上回る 5.1%となり、11 月 2 日の FOMC では 0.75%の利上げを確実視されており金利高の動きに NY 金は下値を模索する可能性は高いと思えるが、「知ったら仕舞い」の格言もある様に NY 金は巻き戻しする可能性があり、2 日以降の金標準先物も高値追いへ変化する可能性は高まると思え、7800 円以下を売り込む事は避けた方が無難と思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足を MACD では、MACD が下がりながら、シグナルも下げており、弱気の域を示し、RCI でも短期が下げながら、長期も下げるなどオシレーターは弱気の域を示唆している。そのため目先は 7700 円に向けた下値追いには注意した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,098,000 円(2022 年 10 月 31 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 10 月 31 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>